長男 淳の過労死 現段階のご報告

2025年 2月 飯島 栄博・登茂子

早いもので長男淳が旅立って6カ月が過ぎました。この半年の間、時に亡き淳に思いを寄せていただき、また私たち遺族を励ましていただきましたこと、本当にありがとうございました。この6カ月をふり返ると、実に様々なことがありました。

- ★ 7月28日の葬儀。武蔵野局や府中局の仲間や転勤で他局へ異動された仲間の方々からのご会葬やご弔電、ご会葬者は40人近くに上りました。
 - ★ 私たち家族は、淳が武蔵野局へ転勤になって以降のつらい日々を知っていました。ですから「これは過労死に違いない」と直感しました。知り合いのご主人である弁護士さんを訪ね、勤務実績表や超勤命令簿などの開示を会社に求める手続きをしていただき、「ガントチャート」などの資料を受けとることができました。
 - ★ 8月下旬、家族の勧めもあり全国一般三多摩労働組合を訪問。9月には「郵便局員過労死家族会」発足集会に参加しました。
 - ★ JP 労組多摩東連協退職者の会幹事会で「退職者の会ニュース」への過労死問題の掲載を求めて議論しましたが慎重論もあり継続になりました。また、退職者の会の各種会議で過労死問題を訴えてきました。
 - ★ 10月22日、淳の母親が加入している全国一般三多摩労働組合から日本郵便にあてて団体交渉の申し込みを行いました。
 - ★ 11月11日武蔵野郵便局前にてチラシ撒き。以降、家族と全国一般、過労死家族会の応援により月1回のペースでチラシ撒きを継続しています。
- 今、私たちは次のことを求めています。

1. 淳の死が、仕事・職場の労働環境が原因の労働災害であることを労働基準監督署に認めてもらったうえで、会社は遺族に謝罪してほしい。
2. 死の原因である劣悪な仕事・労働環境を放置していた会社日本郵便は、安全配慮義務違反への損害賠償を支払ってほしい。
3. そのために、会社は淳の勤務状況に関する書類を提出し、団体交渉に応じてほしい。

会社は、この間2度にわたり団体交渉要求を拒否してきました。しかし、過去に労働契約関係があった元従業員（の遺族）からの団体交渉要求を、「本人は三多摩労組の組合員ではない」という理由で拒否できるのでしょうか？ 不当労働行為です。

私たちは今後二度と武蔵野局で過労死を起こさないために、これからも粘り強く団体交渉を求めていきたいと思えます。

引き続きご支援、お声がけをよろしく願いいたします。